

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 10 日

代表者 加藤 亮介

研究課題名	「社会人基礎・心力」を養成する映像制作・発信型 PBL のプログラム開発
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>研究目的</p> <p>本研究は前年度に引き続き、映像制作・発信型 PBL のプロセスを「社会人基礎力」と「心」の二つの観点から分析・評価し、最終的には、二つの課題(育成)を達成しうる効果的なプログラムの開発を行うことを目的としたものである。</p> <p>29 年度の研究概要</p> <p>29 年度は、前年度に蓄積したデータ群を分析するとともに、心理臨床領域・学生相談領域の研究者との学際的議論を積極的に行った。29 年度の主なプロセスは下記である。</p> <p>①教育工学アプローチによる数値分析</p> <p>まずは、教育工学的なアプローチから、数値的アセスメントに注目し、複数年蓄積して来た「社会人基礎力」におけるデータ、および PROG テストの経年変化について精緻な分析を行った。</p> <p>②学生相談領域との共有</p> <p>学生相談領域がもつ「介入法」に知見のある研究者たちと学際的議論を盛んに行った。「アクティブラーニング」や「協働学習」の現場において今、何が起きているのか?」これに関しては、学生相談学会にて1本「シンポジウム」を立て、多くの領域の研究者、カウンセラーと論点共有と議論を行った。</p> <p>③数値を介在させた「介入」</p> <p>②議論を踏まえ一般教員たる筆者自身が「数値」を介在させ、学生との向き合い(介入)を行うことで、「数的データがいかなる形で介入への材料となるのか」ということを検討し、それを心理学的な事例研究として記述した。</p> <p>④「プログラム化への足場がけ」</p> <p>そして、学生の「情緒的問題」に対して「一般教員はどのように対応し、また介入すべきなのか?」これらの論点をしっかりと整理し、学生相談領域との連携可能性について具体論を考え、プログラム化への足場がけ、および次への具体的なプログラム施策を検討した。</p>	
2. 研究の成果	
<p>29 年度の研究成果</p> <p>シンポジウムを含め上記、①-④を消化することにより、下記の成果が得られた。</p> <p>まず、教育工学アプローチで実践されてきた PBL の評価においては学生間及び学生と教員間で発生する「心の苦悩」や「回避」について語られておらず、数的アセスメントに傾向した場合、それは盲点になる可能性があることが示唆された。</p> <p>この気づきと共に、本研究の核は、その解決を目指し教育工学と学生相談領域との連携を問うたものである。その際、筆頭筆者が行う映像制作発信型プロジェクトを例とし、具体的に問題点を特定した。そして、それらを共同研究者との学際的討議にかけ、次のことが明らかとなった。</p> <p>まず、①教育工学的アプローチによる PBL 構造には参加者、実践者両者に対して「回避」を促す傾向があること。②また、実践者には「数値への偏向」、「逆転移」という状況が発生するが、実践者が抱える困難は、心理学的アセスメントによって、「困難」から「取り組むべき課題」へと変化しうること。③最後に、これらを踏まえ試みた、教育工学的「数値」と心理学的「事例」両者を介在させた介入</p>	

法は、実践者、参加者両者の「困難」を解決しうる可能性が一定程度示された。

このように、本研究において、教育学と学生相談領域の学際的連携の一つの可能性が示唆されたと共に、次への共同プログラム実践への架け橋となった。

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

「論文誌」

2018.5

HMD を用いた VR 美術館の開発および対話的な学びにおける有用性の評価。

加藤亮介・新行内康慈・川瀬基寛・結束孝典,教育メディア研究(投稿中)

2017.11

内面に介入する現代高等教育に生じる困難について-学生相談知へのニーズ。

東畑開人・森田健一・加藤亮介,学生相談研究 38(2)

2018.3

「心の問題」からみた PBL の再検討-教育学と学生相談領域との連携を目指して-。

加藤亮介・東畑開人・森田健一,学生相談研究 (投稿中)

2018.3

社会的コンピテンシー育成を目指した映像制作・発信型プロジェクト学習モデルの検証。

加藤亮介・安達一寿,十文字紀要(48)

「学会発表」

2017.5

日本学生相談学会 年会(中部大学) シンポジウム発表

①研究代表者「アクティブラーニングにおける心の支援 -新たな枠組みの必然性-」

加藤亮介 東畑開人(十文字学園女子大学) 森田賢一(帝塚山大学)

②共同研究者「一般学生による学生への逆転移-プロジェクト・ベースラーニングの経験から-」

東畑開人 加藤亮介 森田賢一

③共同研究者「主体的行動を促すための支援のあり方-学生に相談させるための支援者の挑戦-」

森田賢一 東畑開人 加藤亮介

2017.8

教育情報学会 年会(芦屋大学) 一般発表

コンピテンシー育成を目的とした映像制作・発信型プロジェクトの実践と評価。

加藤亮介・安達一寿

「その他、地域連携・PBL 実践」

2018.4

官学連携事業 映像制作・公開

「埼玉県庁 彩の国はたらく情報館」埼玉中小企業映像制作・公開

<http://www.ecity.ne.jp/hataraku/movie.asp>

※映像制作・発信型 PBL 実践の成果物の一部、2017 年度の連携事業(公開は翌年度 2018 年 4 月)

加藤亮介研究室・メディアワークショップ